



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース91号

令和5年度の催し物

開催日			催し物	時間	対象	受付開始日
月	日	曜				
4	1	土	海苔つけ体験	10:00～11:30	小学生以上	満員御礼
	23	日	緑のカーテンを編もう	①9:30～11:30 ②13:30～15:30	小5以上	電話受付 3月21日（火祝）
5	28	日	海苔でお絵かき「海藻おしばづくり」	①10:00～11:30 ②14:00～15:30	どなたでも	電話受付 4月21日（金）
6	3	土	あみあみペットボトルホルダーづくり	13:00～16:00	小5以上	電話受付
	18	日	あみあみペットボトルホルダーづくり	13:00～16:00	小5以上	5月11日（木）
7	23	日	タペストリーをつくろう	13:30～15:30	小3以上	電話受付 7月9日（日）
	30	日	浜辺の生き物探検隊	9:30～12:00	小3以上	
8	6	日	自由研究で海苔を調べよう	13:00～16:00	小3以上	
	8	火	自然素材でフォトフレームづくり	13:00～15:30	小3以上	
	11	金祝	海のくっつく生き物を観察しよう	13:00～15:30	小3以上	
	14	月	浜辺の生き物探検隊	9:30～12:00	小3以上	
	23	水	貝がら工作	①9:30～11:00 ②13:30～15:00	小学生以下 ※幼児保護者同伴必須	往復はがき 7月1日（土） ～8月1日（火）
	24	木	貝がら工作	①9:30～11:00 ②13:30～15:00	小学生以下 ※幼児保護者同伴必須	
9	9	土	海苔簀づくり	13:30～16:00	小3以上	電話受付
	24	日	海苔簀づくり	13:30～16:00	小3以上	8月11日（金祝）
10	7	土	浅草海苔のふるさと大森を歩く	13:00～16:00	小5以上	電話受付 9月11日（月）
11	23	木祝	初めての海苔つけ体験	10:00～12:00	小学生以上	往復はがき
	26	日	初めての海苔つけ体験	10:00～12:00	小学生以上	
12	2	土	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	10:00～12:00	小3以上	10月21日（土） ～11月1日（水）
	10	日	初めての海苔つけ体験	10:00～12:00	小学生以上	
1	8	月祝	初めての海苔つけ体験	10:00～12:00	小学生以上	往復はがき
	21	日	初めての海苔つけ体験	10:00～12:00	小学生以上	
2	4	日	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	10:00～12:00	小3以上	12月21日（木） ～1月5日（金）
	17	土	初めての海苔つけ体験	10:00～12:00	小学生以上	
3	2	土	初めての海苔つけ体験	10:00～12:00	小学生以上	往復はがき 2月21日（水） ～3月1日（金）
	20	水祝	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	10:00～12:00	小3以上	

★申込み方法：催し物は事前申込み制です。申込み方法や受付期間は催し物によって異なります。

電話での受付：申込み開始日の午前9時から受付開始、先着順。

往復はがきでの受付：申込み開始日から終了日の消印まで有効、抽選。

★申込み・問い合わせ先：大森 海苔のふるさと館

〒143-0005 東京都大田区平和の森公園2-2 ☎03-5471-0333



年間の催し物のご紹介

■緑のカーテンを編もう

海苔網の編み方を応用して、ゴーヤなどを育てるネットを手作りします。



■海苔でお絵かき「海藻おしばづくり」

ノリや近くの浜辺で採れた海藻で絵を描いて、海藻おしばに仕上げます。

■あみあみペットボトルホルダーづくり

海苔網の編み方を応用して、ペットボトルを入れるネット状のホルダーを作ります。

■浅草海苔のふるさと大森を歩く

浅草海苔の一大生産地だった大森の海辺エリアを巡り、海苔に関する史跡などを見学します。



■初めての海苔つけ体験

生海苔から乾海苔を作る体験です。

とにかく体験したい人におすすめです。

■大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験

大森の海苔養殖の歴史や海苔づくりの作業のお話を聞き、伝統の海苔づくりの手わざを体験します。

じっくり学びたい人におすすめです。

夏休み子ども向け体験学習会

■タペストリーをつくろう

海の紐の結び方を使ってタペストリーを編みます。

■浜辺の生き物探検隊

浜辺の生き物の観察をして、身近な海の環境を学びます。



■自由研究で海苔を調べよう

海苔づくりの歴史のお話や道具の体験、質問タイムなど、海苔について学びます。

■自然素材でフォトフレームづくり

水辺に生えている植物のヨシを編んで、ミニサイズの海苔簀を作り、それを貝がらで飾りつけてフォトフレームを作ります。

■海のくっつく生き物を観察しよう

海に沈めた仕掛けに付いた生き物を調べます。物にくっついたり集まったりする習性のある生き物を観察します。



■貝がら工作

貝がらを紙箱の中に貼り付けて、海の中をイメージしたオリジナルの水族館を作ります。

ミニ・イベント

どなたでもご参加いただけます！

■のり☆のリクイズ

4月29日（土祝）～5月7日（日）

開館時間中

■ひまわりプロジェクト

～ひまわりの種配布～

4月29日（土祝）～5月7日（日）

開館時間中

～種まきの巻～

5月3日（水祝）・4日（木祝）

13:30～14:30

～水まきの巻～

5月～7月 開館時間中

～種とりの巻～

9月16日（土）～18日（月祝）

開館時間中

■カブトをつくろう

5月5日（金祝）13:30～15:30

■ハーブのサシェづくり

6月17日（土）13:30～15:30

■展示室で浜辺の

生き物をさがそう！ 

6月と10月の土日 開館時間中

■七夕飾りづくり

7月1日（土）13:30～15:30

■のり検定(海苔のワークシート)

7月22日（土）～8月31日（木）


開館時間中

■ハーブの配布

9月16日（土）～18日（月祝）

開館時間中

■紙芝居

毎月1回 13:30～14:30 

■親子で昔遊び

毎月第2日曜 午後

■天空ガーデン

手入れ 毎月第2木曜

10:00～11:00

(8月・12月・1月はお休み)

植替え 5月・11月

14:00～15:00

詳細は当館WEBサイトをご覧ください。催し物は変更や中止となる場合がございます。

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」91号

令和5年4月1日発行

編集・発行 特定非営利活動

法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース92号

ふる浜で生き物みつけた!

当館に隣接する大森ふるさとの浜辺公園(以下、「ふる浜」)には、たくさんの動植物が生息しています。ふる浜で見つけた生き物たちを紹介します。

自然を感じられる公園

ふる浜は、かつて海があった場所を埋め立てて造られ、平成19(2007)年にオープンしました。公園内は、緑地エリアと人工海浜が広がる浜辺エリアに分かれています。緑地エリアでは、草木が育ち、それに集まるたくさんの虫を見ることができます。浜辺近くの園路では、夏には青い空と強い日差しに映える木々や花などを見ることができます。浜辺エリアは、海からの海水と川からの淡水が混じり合う汽水域となっており、川や海でよく見られる魚が生息しています。また、水鳥も多く、特に冬場には多くのカモ類が群れで渡ってきます。

今回は、「あれはなに？」とよく聞かれる花2種と鳥2種をご紹介します。



当館3階から見た大森ふるさとの浜辺公園(2023年5月撮影)



浜辺の風景(2021年6月撮影)

アメリカデイゴ

夏になるとよく「あの赤くて唐辛子みたいな花は何？」と聞かれます。日本では街路樹や庭木として使われ、ふる浜では浜辺沿いの園路脇に植えられています。寒さにはやや弱く、暑さには強いマメ科の低木です。夏ごろに赤い花を咲かせ、蕾はまるで赤唐辛子しやうけいごのようで、花はマメ科の植物に多い左右相称の蝶形花という姿をしています。



アメリカデイゴ(2020年6月撮影)

ノウゼンカズラ

昔から庭木として利用される中国原産のツル性の低木で、浜辺のパーゴラ(ツル性の植物を育てる棚の総称で藤棚のようなもの)にツルを絡めています。夏になるとトランペットのような形の花を咲かせます。浜辺を見ながら休憩していると熱帯植物のようなオレンジ色の花が南国気分を演出してくれます。



ノウゼンカズラ(2020年6月撮影)

ヒドリガモ

冬になると渡って来る冬鳥で、ふる浜によく群れているカモの仲間です。オスは、茶褐色の頭にクリーム色のおでこ。胸は薄い茶色、お腹は白色をしています。背中側には灰色に黒のまだら模様があります。メスは、他のカモ類のメスに比べて赤みを帯びた茶褐色をしています。雌雄ともに、灰色のくちばしで先端が黒色なのが特徴です。水面を泳ぐのは得意ですが、潜るのは苦手です。水面近くで水草や海藻を好んで食べます。近年海苔生産地では、養殖場の海苔を食べる食害が問題になっています。



ヒドリガモ(左がオス、右がメス)(2022年1月撮影)

オオバン

近年、個体数が増えており、都内の都市部でも川や池でよく見られます。ふるさと館の周辺では冬に浜辺や内川で見つけることができます。全身が黒く、くちばしからおでこにかけて白色をしています。大きさは、カモ類に比べて小柄な鳥です。カモ類に交じって泳いでいますが、カモの仲間ではなく、ヤンバルクイナと同じクイナ科の鳥です。ヒドリガモとは異なり、泳ぎも水に潜るのも得意としています。水草や海藻を好み、虫などの小さな動物も食べます。ふる浜では、当館で冬に設置している海苔網の海苔を食べている姿を目撃したことがあります。



オオバン(2020年3月撮影)

見に来て！生き物情報！！

ふる浜では、遊具や浜辺で遊ぶだけでなく、季節ごとにさまざまな生き物に出会うことができます。

ふるさと館では、入口の情報コーナーで、毎月その時季のふる浜で見られる生き物の情報を発信しています。動植物の写真や毎日の満潮・干潮の時刻などを紹介しています。1階ライブラリーには小さな鳥情報コーナーがあります。図鑑もあるので、自分で名前や生態を調べることもできます。生き物の観察の後は、ぜひふるさと館にもお立ち寄りください。

(森)



1階ライブラリーで鳥情報紹介中！

新職員のごあいさつ

鶴岡 亮太 福岡生まれ、練馬区育ち。絵本より図鑑の好きな幼少時代でした。大学では、サクラエビの資源量調査について研究をしていました。卒業後、魚市場にて水産業界の一員として働いていた経験があります。趣味はアクアリウムとフィギュア制作です。大森の人々の思いがこの博物館にどれほど込められているのかを知り、日々学習の意欲が掻き立てられています。先人たちの歴史や技術を後世に伝えるため、勉学に励み経験を積んでいきます。これからよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」92号

令和5年6月1日発行

編集・発行 特定非営利活動

法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。
会員には年6回、このニュースをお届けします。
詳細は電話またはホームページにて。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース93号

海苔に親しむ 海苔を知る

子どもから大人まで楽しめる
 海苔のブックリスト!!

おにぎりや海苔巻きに使われる海苔。そんな日本食に欠かせない海苔について、みなさんはどのくらい知っていますか。今回は、「海苔について学べる本」4冊と「海苔がでてくる絵本」4冊を集めてみました。本や絵本を読んで、海苔についてもっと詳しく、そして海苔をもっと好きになりましょう! (※今号の解説文では、全て「海苔」と漢字で表記します。)



海苔について学べる本



『のり』 佐武絵里子 (2023年、福音館書店)

お店で売られている海苔はどのように作られて、どうやってお店まで届くのでしょうか。本書では千葉県船橋市の海苔養殖の現場取材し、海苔の養殖の仕方から加工、流通、そしてお店に並ぶまでの様子を紹介しています。海苔づくりの方法は場所によって異なりますが、千葉県以外の手法も紹介しており、現代の海苔づくりの様子がよくわかります。

四角い海苔を昔ながらの手法で加工する手順も掲載しています。



『のりができるまで』 監修:伏屋満、写真:北川暢男 (2013年、ひさかたチャイルド)

本書は愛知県常滑市の海苔養殖の現場取材し、パリパリの海苔が作られていく工程を写真で説明しています。

海苔は種(孢子)のついた網を海に張り出して、海の中で育てていきます。海苔が生長していく様子や収穫した海苔を四角い形に加工していく様子など、私たちが普段見ることのない、海苔のいろいろな姿を見ることができます。



『のりができるまで』 構成・文:宮崎祥子、写真:白松清之 (2022年、岩崎書店)

本書は、原材料が加工品に変身する様子を紹介したシリーズ『すがたをかえる たべものしゃしんえほん』の第16巻です。

この巻では、お寿司やおにぎりなどに欠かせない海苔に注目。神奈川県横浜市、金沢八景の海苔養殖の現場取材し、海苔の種である孢子がどのように生長し、一枚の海苔に変身していくのかを写真を使って分かりやすく解説しています。



『九州・沖縄の漁業』 監修:坂本一男、文・写真:吉田忠正 (2014年、ほるぷ出版)

本書は、九州・沖縄の漁業について学べる本です。その中で有明海の海苔の養殖について紹介しています。有明海のことや海苔養殖の風景、海苔を四角い形に成形するまでの様子がよくわかります。また成形した乾し海苔は検査場に運ばれ、品質によって等級がつけられます。そしてその等級にもとづいて入札されます。本書には検査場や入札の写真も掲載されています。





海苔がでてくる絵本



『オニじゃないよおにぎりだよ』 シゲタサヤカ（2012年、えほんの杜）

おにぎり好きのオニたちは、ある日人間たちが落としたおにぎりを食べて美味しくないとびっくり！それもそのはず、人間たちが落としてから時間のたったおにぎりは、かちかちでばさばさでちょっぴりぷーんとしていたからです。美味しいおにぎりが食べられない人間がかわいそう、と思ったオニたちは、人間に美味しいおにぎりを届けようと考えて…。

一生懸命おにぎりを届けるオニの姿に元気がもらえる一冊です。



『おにぎり』 文：平山英三 絵：平山和子（1992年、福音館書店）

ごはんをたいて、手のひらに水をつけて、塩をつけて、手にごはんをのせて、ぎゅっ。ごはんのまんなか梅干しをうめて、もう一度ぎゅっ。くるとまわして海苔を巻けば、ほら、できた…。

みなさんも絵本を見ながら一緒におにぎりを作ってみましょう。かわいらしい絵と思わず口に出したくなる軽快な文章が魅力的な一冊です。



『のりまき』 小西英子（2019年、福音館書店）

まずは、大きな海苔を用意します。海苔の上にごはんをひろげて、卵焼きにきゅうりにえび、穴子にしいたけとカラフルな具材をのせていきます。具がおけたら、はしからそうっと巻いて海苔巻きを作っていきます…。

色鮮やかでとっても美味しそうな海苔巻きに、思わず手が出そうになります。なんだか海苔巻きが食べたくなってくる一冊です。



『のりまきのりちゃん』 エリックウーリ（2022年、絵本とおひるね舎）

のりちゃんがお母さんと一緒に海苔巻きを作ります。まずは手をぴかぴかにして、すしおけ、しゃもじにうちわなどの道具とあつあつのごはんや白ごまなどの材料を準備していきます。酢飯を作って具と海苔を用意したら、いよいよ海苔巻きを作っていきます。でものりちゃんはお米をこぼしちゃうったり、具材をつまみ食いしちゃったりして…。

かわいらしい失敗に思わず笑っちゃう、ユーモアいっぱいの一冊です。



海苔のふるさと館のライブラリーにきてね

今回紹介した8冊の本は全て当館1階にあるライブラリーに所蔵しています。また、これ以外にも海苔に関わる本はもちろんのこと、東京湾の本やおさかなの図鑑などさまざまな本があります。ぜひこの機会にご来館いただき、いろいろな本を読んでみてくださいね。（牧野）

海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」93号

令和5年8月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区
平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347





特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報
大森 海苔のふるさと館 ニュース94号

企画展 **海苔のふるさと 大森さんぽ** 令和5年8月22日(火) ~11月19日(日)

今回の企画展では、大森の街に残る海苔養殖の面影を紹介しています。大田区で海苔養殖が終わってから60年が経ち、街は変貌しましたが、街のあちこちに当時に伝える記念碑や看板などを見つけることができます。大森で海苔の面影を探しておさんぽしてみませんか。

※掲載している写真は、企画展では展示していないニュース限定の写真です。

1. 堀と河川

海苔養殖をしていたころ、内川や貴船堀・旧呑川のみかわなどは、海苔養殖の船を係留する船着き場で、河岸は資材置き場や作業場にもなっていました。現在、貴船堀と旧呑川は埋め立てられて緑地になりました。

緑地を歩いてみると、海苔養殖の面影や当時の雰囲気を見つけることができます。



潮見橋より旧呑川河口方面



同じ場所から見た現在の緑地

2. 寺社

大森の沿岸域には鎌倉時代が起源と伝わる神社や寺があります。かつて海苔の収穫は運次第で、海難事故の危険もあったため、神仏への祈願や寄進などが行われていました。寺社には多くの海苔関連の石碑などが残っています。



貴船神社の漁業納畢之碑のりま

3. 後世に伝える

海苔養殖の終わりによって海苔生産者はもちろん、地域の人々や学校・船大工・海苔問屋・商店街など、様々な人々がこの歴史を伝える活動を続けてきました。



小学校の校庭で海苔付け体験教室 (平成26年度)

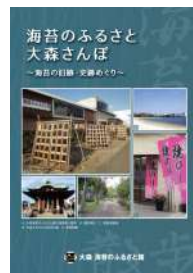
海苔生産者が多かった地域の小学校では、独自の海苔の授業が行われています。大田区に40軒以上ある海苔問屋は、“本場”の味を今に伝えています。当館も地域住民の要望によってオープンしました。

4. 探してみよう!

企画展会場では、地図を見ながら海苔のまち歩きができるチラシやパンフレットなどを配布しています。海苔問屋巡りや旧東海道歩きなど楽しんでみてはいかがでしょうか。(五十嵐)



海苔問屋はそれぞれこだわりの海苔を扱っている



まち歩きにおすすめのパンフレット(当館発行)



大田区立郷土博物館 特別展「海苔商たちの底力」

令和5年10月3日(火)~12月3日(日)



主に大森・東京の海苔の商いに携わる人々「海苔商」を中心に、海苔商の歩みを振り返る展覧会です。講演会なども多数予定されています。

開館時間 9:00~17:00 ※月曜日休館(祝日を除く)

観覧料 一般(区内在住・在学300円/区外500円) 中学生以下(区内在住・在学100円/区外200円)

未就学児・65歳以上の方・障がい者(付き添い1名) 無料 ※身分証明書要持参

大田区立郷土博物館 大田区南馬込五丁目11番13号 TEL: 03-3777-1070 FAX: 03-3777-1283

天空ガーデンの花々をご紹介します

当館3階の天空ガーデンでは、毎年5月と11月に花の植え替えを行っており、一年中様々なお花が咲いています。今回は11月の植え替え後に見られるお花をご紹介します。

1. ガーデンシクラメン (サクラソウ科)

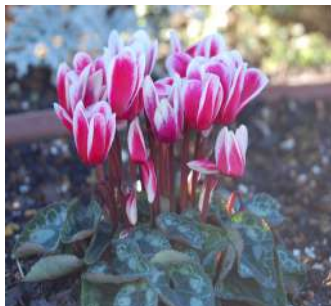
ガーデンシクラメンは冬に咲く多年草の花です。

シクラメンは耐寒性が弱く屋外で冬越しができません。そこで、耐寒性が比較的強く庭植えもできるように品種改良されたのがガーデンシクラメンです。シクラメンよりも小ぶりですが、当館3階でも毎年冬のガーデンに彩をそえてくれます。球根を休眠させて夏越しすると毎年楽しむこともできます。

ところで「シクラメンといえば大田区」とよく聞くように、シクラメンは大田区の特産物です。

戦前、馬込一带には多くの農園がありました。戦後の宅地化により農地の減少が進む中、農業協同組合馬込地区の青年部は「馬込園芸研究会」を発足しました。研究会ではシクラメンの温室栽培を共同で研究し、シクラメンの生産力を高めていきました。

現在でも大田区内には2軒の農家がシクラメンを栽培しています。出荷は11月頃からはじまり、12月頃には最盛期を迎えるそうです。



ガーデンシクラメン



区内農家のシクラメン
(大田区立郷土博物館提供)

2. パンジーとビオラ (スミレ科)

冬の花壇で代表的なパンジーとビオラは一年草の花です。これらは学術的には同じ花ですが、園芸上は花の大きさで区別されています。花が5センチ以上のものをパンジー、5センチ以下のものをビオラと呼んでいますが、明確な基準はありません。

パンジー・ビオラともに現在も様々な改良がなされていて、花色・品種が非常に豊富です。ビオラだけでも品種は数百種類あるとされており、花びらが丸いものから八重咲のもの、フリル状のもの、ウサ

ギの形のものもあります。色は赤・白・黄・青などの単色や2色のもの、グラデーションカラーまであり、様々な色・形を楽しめます。当館でも毎年どんな品種のパンジーやビオラを植えるか選ぶのを楽しみにしています。今年はどうな品種をガーデンに植えようか…。植え替え後の花壇をぜひご覧ください。



パンジー



ビオラ

3. お手入れと植え替えのお知らせ



令和4年11月の植え替え作業の様子

ガーデンのお手入れや植え替えをしてみませんか。

- ★お手入れ：10月12日（木）、11月1日（水）
10：00～11：00（12・1月はお休み）
事前申込み不要
- ★植え替え：11月3日（金祝）13：30～14：30
当日先着3組

作業の詳細については、当館HPをご確認ください。ぜひ一緒に素敵な花壇をつくりましょう。
(牧野)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」94号
令和5年10月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347



**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報



大森 海苔のふるさと館 ニュース95号



新年のご挨拶



海苔のふるさと会 理事長

茨田 尚

明けましておめでとうございます。

昨年、海苔のふるさと会の理事長を拝命いたしました、茨田尚(たかし)でございます。会員の皆様には、平素より館の発展のためご尽力いただきありがとうございますこと、心より感謝申し上げます。甚だ微力ではございますが、中村博前理事長の後を受け継ぎ、ふるさと館ならびに会の事業運営に皆様のお力添えをいただきながら専心努力してまいり所存です。今後ともご協力賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

昨年はマスクの着用が個人の判断となりました。ふるさと館でも展示の制限のほとんどを解除し、幼児が参加できるイベントを再開しました。

十一月はOTAふれあいフェスタが、四年ぶりにふるさと館でも開催されました。さらに、大森ふるさと浜辺公園がメイン会場となり、二日間の入館者数は過去最多を記録しました。また、東京港野鳥公園、大森西・大森東地区のおまつり、品川区の施設など外部から協力依頼を受けたイベントも実施しました。

今後とも皆で協力し知恵を出し合い、会の運営理念であります地域の海苔の歴史を伝えることで人と人と地域とのつながりを育んでいく所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年はこんなニュースがありました！ — 本年もよろしくお願い申し上げます —

OTAふれあいフェスタ開催！！

11月4・5日に大森ふるさとの浜辺公園・平和の森公園・平和島公園の3つの公園で開催されました。2日間でおおよそ188,700の方が来場し、当館にもたくさんの方がいらっしやいました。

当館周辺には多くの海苔問屋さんが出店。お手頃で美味しい海苔が買えるとあって長蛇の列になっていました。

ほかにも、特設ステージでは大田区観光PR特使のシクラメンが登場したり、みこしパレードでは4つの神輿が園内を練り歩いたりして、大いに盛り上がりました。

このほかにも、区や都主催の大きなイベントが再開され、少しずつではありますがコロナ禍前の活気が戻ってきています。

往復ハガキ受付開始

一部の公募イベントの申し込み方法を電話受付から往復ハガキに変更しています。

届いたハガキは写真のように抽選箱に入れ、一枚一枚取り出して当選者を選んでいます。

ご応募いただいた方からは「子どもと一緒にハガキを書く機会がなかなかないので楽しかった」などというお声を頂いております。



紙芝居など再開！！

約4年間お休みしていたイベント「紙芝居一座がやって来る！」と「親子で昔遊び」を再開しました。

紙芝居は毎月1回土曜日に読み聞かせボランティアの方が、当日の観客に合わせて紙芝居を選定し上演します。昔遊びは毎月第2日曜日にコマおじさんやけん玉名人が、昔遊びの道具を持ってふるさと館にやってきてくれます。

皆さまもぜひお越しください！





寒い冬の海苔の作業



海苔の収穫期は冬の寒さとの闘いでもありました。冷たい海と寒さの中での作業について解説します。

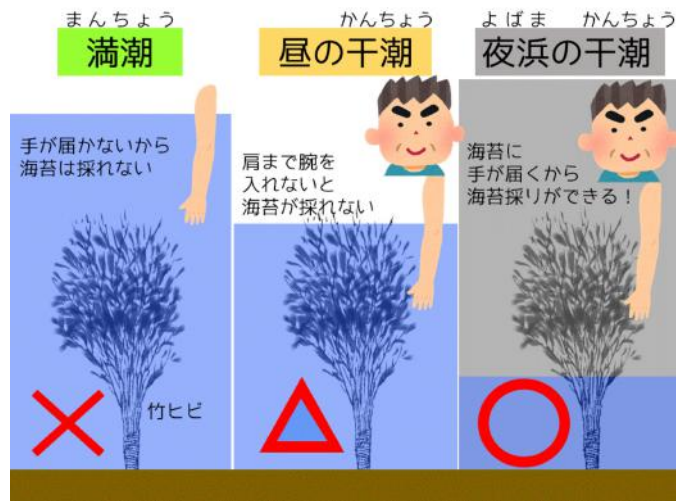
1. 竹ヒビ時代の夜浜(ヨバマ)と正月

大正時代半ばから昭和20年ごろまでは、竹ヒビで海苔養殖をしていました。海苔採りは、竹ヒビが水面から出る干潮の時間帯に合わせて行きました。

12月から1月は昼の干潮時は大きく潮が引かず、竹ヒビの先端がようやく水面に出る程度でした。海苔が付いている部分は海の中なので、利き手の袖を肩までまくり、腕を海水に深く入れて海苔を採りました。夜しか潮が引かない日は、石油のカンテラやカーバイトランプで明かりを照らして海苔を採り、深夜12時か1時ごろ帰ってきました。そのことを夜浜(ヨバマ)といいました。

翌日の海苔の作業は、深夜1時か2時から始まります。そのため、夜浜から帰ってくると、仮眠を取るか取らないうちに海苔付けの準備が始まりました。昼間休んで、午後に海苔はがしを手伝って、夕方にまた夜浜に行き、海苔採りをしました。正月は夜に潮が引くことが多く、夜浜で正月を迎えることもあり、正月も休まず働きました。

夜浜は4日間続き、5日目は潮が一番引かない「潮合い(シオアイ)」で、仕事を休みます。正月の仕事休みを「潮合い正月」といいました。



潮位と海苔採りの関係

2. 海苔を素手で採る

海苔採りは手袋をすると海苔が滑って採れないため、素手で採りました。冷えて手がかじかむと、ベカブネの前板(コベリ)に手を打ち付けて痛みを感じるよう

にして感覚を戻しました。海苔を採る方の腕は常に動かすので湯気が出るほどでしたが、反対の手がかじかんだそうです。

3. 未明の海苔付け

海苔を採った翌日は、まず海苔切りをして、刻んだ海苔を水に溶いて海苔付けをします。未明の海苔付け場は暖房もなく、母親が用意してくれた甘酒で体を温めて海苔付けをしたり、眠気を覚ますために井戸の水で顔を洗ったり、さまざまな思い出があるそうです。

また、夜明け前に起きて、井戸の水を汲む手伝いをした子どももいました。井戸の取っ手は鉄製のために氷のように冷たく、感覚がなくなった手をお湯で温めながら行いました。



海苔採り (横山宗一郎氏撮影)



未明の海苔付け小屋と井戸



海苔付けの様子

4. 冬の天候

12月後半は冷え込みが厳しく、午後には“サガベツト”(冷たい北西風)が吹きました。1月から2月に吹いた“寒カチナレ”(ナレは北風)は夕方から夜にかけて強く吹く突風です。1月まではナレ、2月から4月は“朝ナレ夕南”といい、朝は北風で夕方から南風が吹きました。西の空に蝶の形をしたチョウチョウ雲が出ると、北西の風や西の風が吹きました。冬の突風は恐ろしく、海での作業は危険と隣り合わせでした。

(五十嵐)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森 海苔のふるさと館ニュース」95号

令和6年1月1日発行
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会
連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333
FAX 03-5471-0347



**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

大森 海苔のふるさと館 ニュース96号

令和5年度 海苔生育観察事業 作業報告

大森 海苔のふるさと館では、かつて海苔の漁場があった大森の海辺を再現できるよう、15年ほど前から大森ふるさとの浜辺公園(以下、ふる浜)にて昔ながらの道具「竹ヒビ」と「海苔網」を設置しています。できることなら海苔網から生長した海苔が垂れ下がる様子まで再現したいのですがなかなか思うようにはいかず…。今号では、今シーズンの作業の様子をご報告いたします。

1. 竹ヒビの準備

当館での竹ヒビづくりは前年の冬から作業が始まります。令和5年2月、竹ヒビ用の竹を切り出し、8月にはアク抜きをします。刈り取った竹の表面にはアク(油分)があり海苔が付着しにくいいため、1ヶ月ほど海中に沈めてアクを抜きます。9月にはその竹を海から引き揚げ洗浄し、竹ヒビへと加工する「ヒビごさえ」をしていきます。かつての竹ヒビは3年ほど使ったら役目を終えましたが、当館では技術を覚えるために30本前後ある竹ヒビのうち半分程度を毎年新しく作り替えています。

竹ヒビづくりはヒビ鉋とねじりん棒を使って行います。竹の根元を^{なた}尖らせたり、針金をねじりながら締めて枝を取り付けたりします。力仕事の中に繊細な技術が含まれています。職員とはまどの会のメンバーで12本、中学生の職場体験で3本の合計15本を新しく作りました。



竹切り



アク抜き



ヒビ上げ



ヒビごさえ

2. ヒビ建て

竹ヒビが完成したら、次はふる浜に建てます。令和5年10月28日(土)、振り棒を使って海底に穴を開けて、竹ヒビを1本1本差し込みながら建てていきました。かつてはすべて1人で行っていたそうです

が、私たちはまだ不慣れなため、2人1組で実施しました。息を合わせて抜き差ししないとうまくいかないため、大変な作業です。やっとの思いで34本の竹ヒビを建てました。

同日に海苔網用の支柱も建てました。支柱は事前到场割りとして建てた9本に加えて、54本を水圧ポンプで建てました。



ヒビ建て



ヒビ建て



支柱建て



ヒビ・支柱建て完了

3. 水温や塩分の測定

11月に入り、網張りまで1ヶ月程度となるころから、ふる浜の状況を知るため水温や塩分を計測しに行きます。海苔が無事に育つか見守るため、2月ごろまで実施します。

4. 網張り

令和5年12月9日(土)、例年より1週早い時期に網張りを実施しました。今回も木更津の海苔漁師の方に種付けしていただいた網を、職員とはまどの会で支柱に固定しました。網張りの時期は年によって極寒だったり小春日和だったりするのですが、今回は比較的暖かく穏やかな日でした。と言っても気温水温はともに12.8℃、海苔が育つには十分な温度です。この時の海苔の長さは1~2mmほど。スタッフ全員で、

海苔が健やかに育つよう祈念しました。



網張り



網張り

5. 食害対策

ふる浜にはクロダイ、キチヌ、カモの仲間など海苔を食べる生き物が冬によく集まります。そこで、令和5年12月18日(月)、海苔が食べられずに育つよう緑色のネットを防鳥・防魚ネットとして海苔網の上下に設置しました。加えて日の光をキラキラ反射するテープも取り付けました。



防鳥ネット

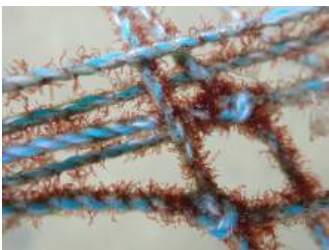


テープ

6. 海苔の生長

年末には6枚重ねの網を3枚ずつに分けて「展開」もしました。網張りから年末年始にかけて、海苔は順調に生長していました。網張りの時には1~2mmの海苔が約10mmと着々と伸びていて、30mmに育っているところもありました。今年はまた収穫できるかも、と思えそうなほどでした。

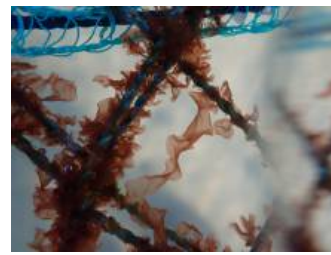
しかし、令和6年1月14日(日)にはまどの会のメンバーも集まって海苔網を見に行ったところ、長いもののほとんどが10mm程度に、平均して5mmほどになっていました。やはり生き物が食べに来ているのかもということで、鳥対策として緑色のネットを海苔網の側面にも設置して、強化しました。



12月11日の海苔



12月22日の海苔



1月5日の海苔



1月21日の海苔



網観察



ネット強化

7. その後...

令和6年1月28日(日)、はまどの会のメンバーとネットの効果を見にふる浜へ行きました。が、残念ながらその後の効果はあまりなく…海苔は短く、少ないままでした。それでもなんとか少しだけ海苔を採り、海苔つけを1枚分することができました！乾しあがった海苔にはツヤがあり、決して悪い状態の海苔ではなかったことが分かりました。やはり、美味しい海苔としてふる浜の生き物たちが食べているのかもしれない。あの2年前のような海苔が伸びた風景の再現までは長い道のりのようです。水温や塩分を測定した結果では海苔が十分に育てる範囲にあります。海苔が育つ海ではありますが、食べる生き物たちがいるのも事実です。来年度はなんとか1回でもたっぷり海苔採りをさせてほしいところです。

しかしながら、この事業の目的は昔ながらの海苔づくりの作業を継承していくことが一番です。地元元海苔生産者の方々から教わったことを職員とはまどの会のメンバーで引き継いでいます。手作業が好きな方、ふる浜での活動に興味がある方、冬の海に入って作業してみたい方がいらっしゃいましたら、ぜひ「はまどの会」のメンバーになってください！

(滝本)



海苔つけた海苔

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」96号

令和6年3月1日発行

編集・発行 特定非営利活動

法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



**海苔のふるさと会
会員募集中!!**

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。